

発行元：新島村農業委員会事務局（新島村産業観光課内） ☎（5）0284（直通）

令和2年4月1日に農業委員4名が就任しました！

平成31年に改選があった新島村農業委員会ですが、昨年度中に様々な事情により委員の減少があったため、補充の公募を行い、4名の農業委員の方が新たに就任しましたので、お知らせいたします。

◆新たに農業委員となった方の紹介◆

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

議席番号 2 番

奥山 敏仁 委員
(式根島地区)



農業高校を卒業し、平成14年に式根島へ来てからも農業に携わっています。自分で生産した芋で芋焼酎も作っています。村の農業振興に寄与できるよう頑張ります。

議席番号 5 番

公文 宏司 委員
(本村地区)



初めて農業委員会の委員となります。農業に関わることで自分自身ですが、少しでも新島村の農業の振興に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いたします。

議席番号 10 番

内藤 政之 委員
(本村地区)



初めて農業委員会の委員になりました。日々学びながら皆様のご相談やご要望にお応えできるよう頑張ります。

議席番号 11 番

吉見 一之 委員
(本村地区)



私にとって農業はまさに畑違いの業種ですが、少しでも皆様のお役に立てるよう一生懸命努めさせていただきます。

昨年中国湖北省武漢市付近で発生が初めて確認された「新型コロナウイルス」は、現在も世界的大流行（パンデミック）を引き起こしています。日本に於いては、政府によって4月から緊急事態宣言が出され、不要不急の外出を控え、人との接触を最小限にとどめるように、外出自粛・営業自粛の要請がなされています。

このような中、食料供給を担う農家や農産物直売所の存在が各地域で増えています。日本各地域の農家は、田畑に向かい営農を続け、直売所は食卓を支えています。新島村に於いても、農家の皆様が新島村農協の直売所・地域食料品店に、精力的に農産物を納入してくれています。数は多くありませんが、地域の食を支える一助となっていることは言うまでもありません。

(農家の営農活動は外出自粛)

昨年新島村を襲った台風、そして現在のコロナ禍。このような状況に見舞われたとき、食料が安定供給されることは大変重要です。新島村では、海が時化ると食料品が手に入らなくなってしまうため、昔から各家庭では自給的営農（ナエバでの営農）が盛んに行われてきました。

新島村の農業は、高齢化による離農、頻りに発生する自然災害により危機的状況にあります。現在の就農・農産物生産状況では、全住民の食料を賄うことが不可能です。災厄に見舞われたとき、食料の地域内自給は、命を守ることに繋がります。

まずは、自分のために、家族のために、農業をはじめてみて下さい。

(農業委員 石野 正幸)



▲農協店舗内の直売所で販売される野菜

「自給的営農のススメ」

「今年のトウモロコシとハウスの修復について」

昨年、播種時期を早めて雄花が早く咲いてしまい、失敗したトウモロコシですが、今年は播種時期を3月初めでの挑戦です。

雄花と雌花が順調に咲き、受粉がほぼ終わって順調に生育していきますので、このままいくと6月初めには出荷予定になるのではないかと思います。

寒い時期の播種・育苗とハウス内での保温で手間がかかり、また定植時には透明マルチのトンネル等の設置で大変ですが、順調に育ってくれることをうれしく思っています。



▲順調に育っているトウモロコシ



▲修復が完了した耐風ハウス

去年の台風で屋根サイドのほぼ全体が被害を受け、骨組みを残して改修工事した耐風ハウスですが、POフィルムの上から6ミリ目の防風ネットを特注品で加工し、内部も単管パイプを平行に組み、風揺れの少ないハウスになりました。現在、この中ではピーマンとパプリカが順調に成長しています。

（農業委員 北村 一男）

「式根島へのトラクター導入について」

この原稿を作成している時にコロナウイルスによる緊急事態宣言が東京都も解除されると報道されています。これが皆さんのお手元に届く頃には来島自粛も解除され、また賑やかな島風景を目にできることを祈っています。

昨年の台風によるハウス被害からすでに八か月が経過し、改修工事を今年三月に予定していましたが、コロナの影響により白紙となり、緊急事態宣言で更に先の見えない闇に放り込まれた気分になりました。

しかし、この四月から式根島にもトラクターが導入され大規模に耕せるようになったことにより、耕作意欲が沸き、島唐辛子をたくさん植えることができました。（今までは家庭用耕耘機で全てやっていたので大変疲れていました。）

作物栽培をする上での課題は肉体的、体力的に負担となる「土を耕す」作業か



と思います。

「野菜を植えたいけど耕すのが・・・」という耕作意欲はあるけど体力に不安な方でも、お声掛けいただければ代わりに耕すことが可能です。

耕作放棄地が年々広がっていく中で、これからの「島の農業再生」を考えると一助となればと思います。

（農業委員 綾 真吾）